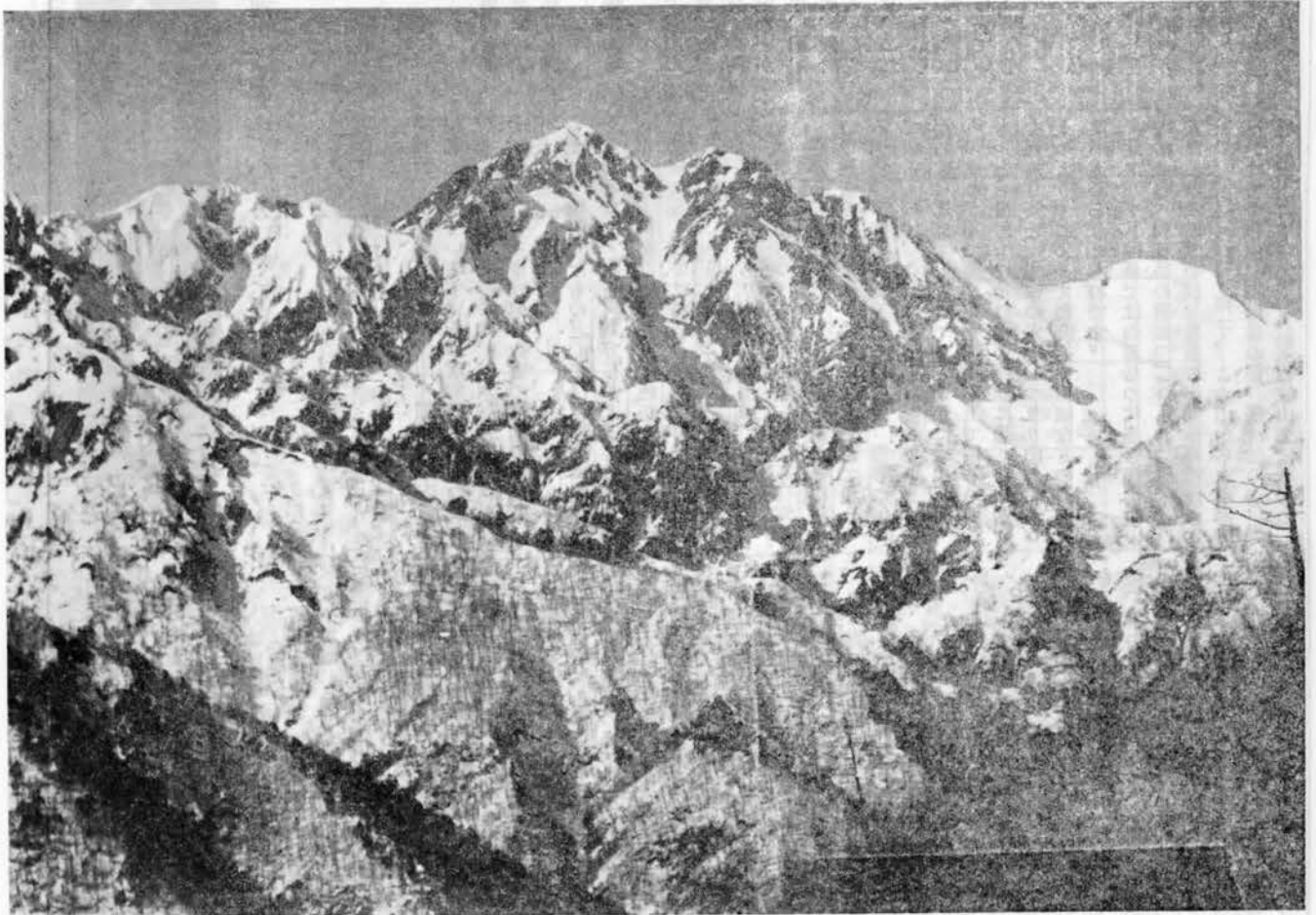


山と博物館

第14巻 第1号 1969年1月25日 大町山岳博物館



冬山遭難に思う

久しぶりに晴れあがった新春の空に、白銀の北ア連峰がまぶしく輝いている。

年末年始を中心とした冬山登山も一段落したこの頃だが、今年程数多くの話題を提供したシーズンも少ない。

今年の正月を山で過した者の一人として、また地域山岳団体の一員としてその立場から幾つかの問題点について述べてみたい。

今冬の主役は、何といても記録的な豪雪による遭難騒ぎであろう。

これに対する見方はいろいろあるが、登山者に対する批判とすれば、冬山に対する考え方の甘さという点に止めをささざるを得ない。一月下旬から二月にかけての冬山経験者ならば一夜にしてテントを埋めつくす豪雪を経験していると思うが、こゝ数年、年末年始ではそのような積雪を見た事はない。が、こういう事は起り得るのだという事を肝に銘じて事前に充分エスケープの方策をたてておく事が必要である。

その反面、社会一般に遭難アレルギー的風潮がありはしないかという事を痛切に感ずるのは私一人だけだろうか。勿論これは善意によるものであり、登山者の側に責任の大半があることは明らかであるが、何か信頼感が失なわれてしまったように思われ、情けなくなるのである。私たちは、あの連中の事なら心配はないといった信頼感を持たれるような登山者に、山岳団体になるよう一層の努力をしたいと思います。

剣岳方面では救援隊が馬鹿々々しくなつて救援活動を止めたという話も耳にしたが、わかるような気がする。これも登山者の質の問題であり、遭難救助体制の問題であるが、これは紙面の都合で割愛する。

荷上げ物資の盗難事件、通信機材の活用等にもふれたいが又の機会にゆずるとして、最後に忘れてならないのは山岳遭難保険の活用である。剣岳における金沢大学パーティーに始めて適用されて捜索費用が支払われたという事だが、登山者の社会的責任義務として大いに活用すべきと思う。

(大町山の会長 久保田 稔)

北アルプス北部の山今昔

(六)

……後立山連峯を中心として……

長沢武

山名考

B 山名発生原因考

山名からその語根をさぐり、発生原因を推測し、それを原因別に大別すると第三表のようになります。以下これらについて私考を試してみようと思います。

(1) 山名

山名の大半はこの類に属するもので、山の形によるものでは、丸形の丸山、飯盛、笠、鍋、鐘、室(ムロ)塚など、梯形の鉢、四阿など三角形では、尖、槍、鐘、針、剣などが、M形のは乗鞍、矢筈、舟窪、窪、背くらべ、双子、二上、矢笠、鎌ノ峯、鎌崎などが、さらに峯が多くなると群山、蓮華、鷺羽、鋸、屏風などという山名があり、これはいずれも何かの形に似ているところからそのものゝ名前や形で呼んでいるもので、この他特殊な形に似ているという所から来ているものに天狗、烏帽子、富士、大黒、燕などと沢山あります。

危険な地形を持つものとしては、餓鬼、仏(ホケ、ホケ、ホケ)元(ハゲ、ハゲで八景峽、組や白元、赤元、白萩、白羽毛などと変化している場合が多い)の他不帰、池の谷(行けぬ谷の意)などがあり、これが岩壁である場合は菱で、黒菱、割菱、蓮華菱などと呼ぶ所が沢山あるし、岩が墨々としている状態の場合は品(クラ)で、雪倉、七倉、大蔵、

横前倉、平倉、一ノ倉、位山、細蔵山などの山名となっています。その反対に老年期のおだやかな山容のものでは、五六、五郎、ゴロ、高呂、ゴラ、真砂などの名前の山があります。

また、地質的なものとしては、鉱物に関係ある山名では、水晶、六方石、火打、硫黄、ローカン、御影などがあり、色から来ていると思われるものでは白岩、白山、白根、赤岩、黒岩、赤石、小黒、黒沢、赤沢、渋、濁、赤岳、黒岳などがあります。(注10)

(2) 雪形からつけられた山名

春から初夏にかけて、山の雪が消えるに從い、残雪の形または、残雪に縁どられて現れる岩肌の形はいろ／＼なものの姿、雪形に似ているもので、これは雪形といわれていますが古くは旧暦でしたのでひどい年には二ヶ月ものずれが出て農作業を進める上で困るのもっとも自然で、その年の気候に適した時期を選ぶ目安として岳の雪形、つまり山の雪消えのようすによって種時きや田植などの農作業が進められたものです。

北アルプス関係では白馬岳の代掻き馬、乗鞍岳の鶏、朝日岳の恵振(エブリ)又はエブリ、五竜岳の武田家の紋、岳翁や小蓮華の種時き爺、鹿島槍の鶴、獅子、この山から布引岳へかけての布引、不動岳の扇、蝶ヶ岳の白い蝶、越中では人形山の人形、西笠山では傘形の

山体に傘の筋のような雪形が現れるし、僧ヶ岳では僧の形が現れますが、まず僧の形が現れやがて尺八を吹く姿となり、さらに馬を引く姿に変わるといわれています。

この他、有名なものとしては、南駒ヶ岳の五人坊主、宝剣岳の島田あたま、富士山の農男、豆蔲小僧、南アルプス農鳥岳の農鳥、農牛、鳥海山の舟形雪、上信境の四阿山の十の字原や、同じく上信境の三の字の頭と呼ばれる峯では、三ノ字で苗代を作り、二の字で豆を蒔き、一の字になった時に田植えをするのだそうです。また、全国にある駒ヶ岳という名の山はそのほとんどが馬の雪形が現れるそうです。(注11)

(3) 気象的現象からつけられた山名

自然現象の中、気象に関係あると思われる山名を拾ってみると、特に多いのは朝日夕日など太陽に関係のある山名が目立ちます。

朝日岳、旭岳、大天井、有明(以上北アルプス)光岳(南ア)驚品御天上(会津)などはいずれも日の出と関係ある名前で、夕日ヶ丘、御影岳(北ア)は夕日に関係ある名前です。この他、日向、大日向、日影、大日影(南ア)などという山名も日照に関係しています。

次に雪に関係あるものでは、雪倉、白岳などは雪積が多いところからきてい、この他霧ヶ峯、霞沢岳、雲の平、雨飾、風吹岳などと霧、カスミ、雲、雨、風といった気象に関係する山名も沢山あります。

(4) 動植物の名前からつけられた山名

動植物と関係ある名前の山の中、植物名を持つものはその山の植物相に関係あるものが多く、北アルプスでは桐山(岳岳)や桐池の桐、針の木の榊、春ノ木、横沢岳(三俣蓮華)の榎、徳沢のトクサ、葛葉峠の葛、刈安峠のカリヤス、葱平のアサツキ、黒部のクロベなどが、南アルプスには唐松山、樺山、笹山などという山もあり、植物名は山名よりも谷、沢などの地名に多く見られます

次に動物の名前に関係あるものでは、山容や雪形が動物に似ているところからつけられたものが多いけれども、その他兎平、大熊、小黒山、鳥越、鴨、兎岳、鷲、鷹、狐、狐尻、鳥森山などがあります。

(5) 故事、伝説、信仰的原因による山名

故事、伝説に関係あるものは、山名より谷沢名に特に人名を伴って多く見つけられます。山名ではこの二つに、さらに信仰を伴うものも多く、北アルプスから挙げてみると、大日岳(大日如来石像を祠る)鹿島槍(鹿島明神を祠る)有明山(戸放獄(天の岩戸伝説)鳥放岳(時を上げる鳥の伝説)穂高岳(穂高明神を祠る)などがあげられますがこの他、猫又岳は伝説の山であり、岩小屋沢岳は狐師小屋のあった所、鳥帽子岳を三吉といったのはかつて有名な盗伐事件があったのがこの山でその男の名前が山名として残ったといわれています。針ノ木峠は又の名を佐々越え(サラサ

高瀬川入り奥山の絵図(明治8年頃のものを)



第三表 原因別山名考

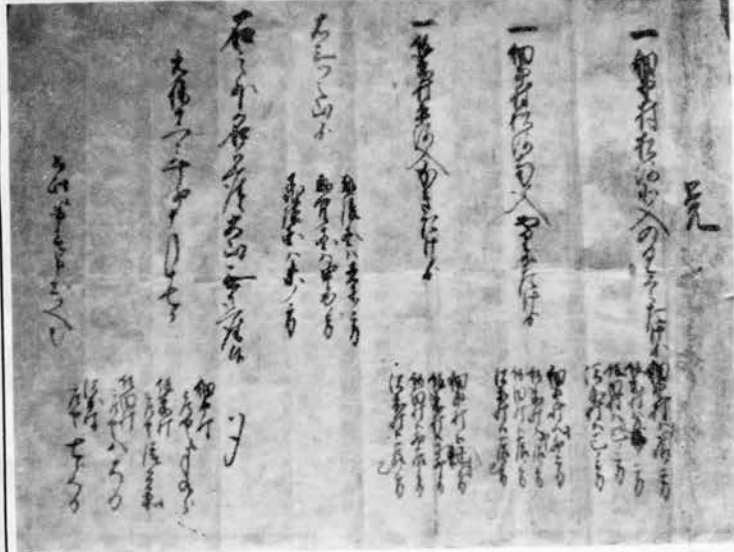
山名	原因	区	介	山名	原因	区	介
朝日岳	朝日	赤野?	鳴沢岳	鳴沢	鳴沢	赤沢	赤沢
赤野岳	赤野	赤野?	鳴沢岳	屏風	屏風	スハリ岳	スハリ
雲倉岳	雲倉	雲倉	針水岳	針水	針水	針水	針水
鐘岳	鐘	鐘	針水岳	針水	針水	針水	針水
横前岳	横前	横前	蓮花岳	蓮花	蓮花	蓮花	蓮花
風吹岳	風吹	風吹	不動岳	不動	不動	不動	不動
乘鞍岳	乘鞍	乘鞍	鳥帽子岳	鳥帽子	鳥帽子	鳥帽子	鳥帽子
蓮華岳	蓮華	蓮華	三ッ岳	三ッ	三ッ	三ッ	三ッ
旭岳	旭	旭	真砂	真砂	真砂	真砂	真砂
清水岳	清水	清水	火打五郎	火打五郎	火打五郎	火打五郎	火打五郎
猫又山	猫又	猫又	野呂岳	野呂	野呂	野呂	野呂
白馬岳	白馬	白馬	赤岳	赤	赤	赤	赤
杓子岳	杓子	杓子	黒岳	黒	黒	黒	黒
鐘岳	鐘	鐘	赤牛岳	赤牛	赤牛	赤牛	赤牛
天狗岳	天狗	天狗	鷲岳	鷲	鷲	鷲	鷲
不帰峰	不帰	不帰	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
唐松岳	唐松	唐松	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
八方山	八方	八方	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
大黒岳	大黒	大黒	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
五竜岳	五竜	五竜	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
唐松岳	唐松	唐松	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
布引岳	布引	布引	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹
箱根岳	箱根	箱根	鷹岳	鷹	鷹	鷹	鷹

ラ越え」といいますがこれは佐々成政の伝説によるものであり、常念岳はその昔、常念という僧が開山したといわれ、中アの経ヶ岳は昔山頂に経文を埋めたという伝説があります。この他、単なる宗教的信仰から名付けられたと思われる山名では、手近かなところから挙げて、薬師、杓子(釈子)天狗、錫杖、赤鬼、餓鬼、地蔵、針ノ木、不動、明神、鬼、

龍王、浄土、仙人、僧ヶ岳などと数えきれないくらいあります。
 (c) 沢名、地名から生れた山名
 山は里近くからしだいに奥へ開けて行くのが自然の姿であり、従って名前も下から上へ里から奥へと付けられて行く場合が多いと考えられます。(バリエーションルート開拓時にならなければ逆に山名から沢名がつけられ

る場合が多い)
 沢は新採りや山菜採りなどに古くから大勢の人が入るから、まず最初に名前がつけられその源頭の山名も、特殊なものを除いてはそのまゝ同じ名前がつけられるのが、原始的段階での命名法と思われまゝ。
 北ア北部だけを見ても、岩小屋沢岳、鳴沢岳、赤沢岳、南沢岳、横沢岳など現在名を持つものは勿論、天狗岳の松川岳、唐松又は大黒岳の平川岳、爺岳の白沢岳、蓮華岳の大沢岳、赤岳の七八沢岳、赤岩岳の大野川峯、餓鬼の一ノ沢岳などの古名をみてもその山から出ている沢は今もその名前と呼ばれており、このことがうなずけます。
 このようなことは一つ／＼例を挙げなくても全国各地いたる所に見受けられます。

(d) 位置、順序、区分など副詞
 付山名
 同じような名前や形の似ている山が沢山ある時は、他と区分するために地名や方角、位置、大きさ順番などの副詞を付けて他との混同を避けている場合がほとんどでこれは丁度鉄道の駅名の頭に「信濃」とか「越中」などと付けるようなもので、全国各地に見当ります。
 北アルプス北部の山だけを取り挙げてみても、地名を付けたものでは、鹿島(槍)野口(五郎)有明(山)信濃(富士)などがあり、方角を付けたものでは北(槍ヶ岳)北(針ノ木)南(真砂)東(鷲羽)西(鷲羽)などがあります。
 次に位置を示すものでは、上(駒ヶ岳)上(大岳)中(岳)中(俣岳)前(蓮華)横山などがあり、大きさを示すものでは、大(蓮華)小(蓮華)小(鷲)などが、又順番を示すもの



元禄12年絵図作成のため大山の位置名称についての調査あり、細野・飯森・飯田沢庄屋より届へ提出した報告書の抜

C 呼称の進化と発生語源の忘却

(i) 言葉は生きています
 言葉は魔物である。日常用語をみても、次から次へと新しい言葉が生れ、流行したかと思ふと間もなく消え、次の新語が生れて又流

では、三ッ岳、五岳、六岳、四五六岳、七八沢岳、一ノ沢岳などがあります。
 しかしまだ、天狗岳、駒ヶ岳、朝日岳、大日岳、乗鞍岳、黒岳、赤岳、鳥帽子岳、餓鬼などという同名の山は全国に幾つかあるので混同を避けるために、国土地理院か山岳会あたりが中心となって、山名の再編成をしてはどうかものかと提案し次に進みたいと思ひます。

